

各所からの意見聴取の状況

1 ひょうご環境未来会議

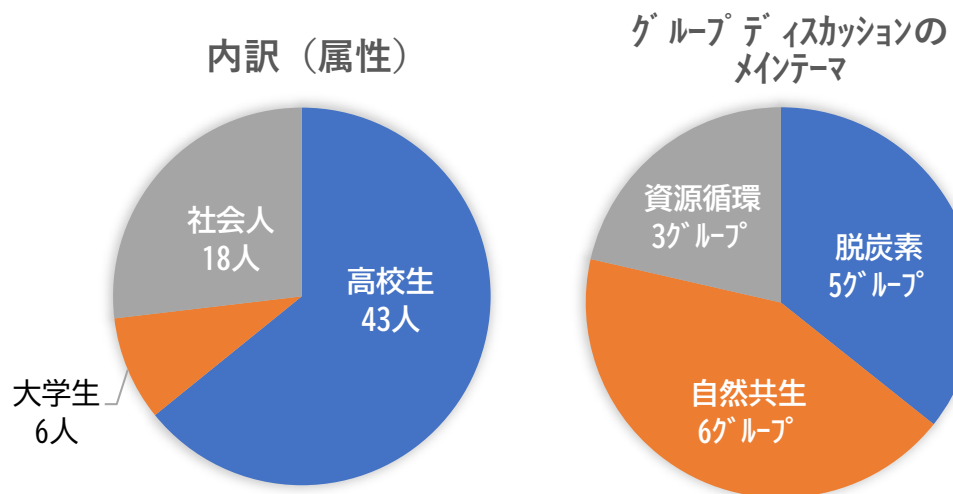
趣旨・内容

- ・ 2050年に社会の中心を担う将来世代をはじめとする幅広い県民の意見を取り込みながら計画案を検討する取組みの一つとして、「ひょうご環境未来会議」を開催
- ・ 豊岡(6月1日)、神戸(6月8日)、姫路(6月15日)の3会場で、「脱炭素」「自然共生」「資源循環」の各テーマでグループに分かれ、2050年のあるべき姿や実施すべき対策等について意見交換

〔協力〕(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)関西研究センター 〔協力(学術指導)〕大阪大学大学院工学研究科 原圭史郎教授

参加者

- ・ 学生を中心に、15歳～61歳までの計67名が参加



（高校生・大学生の所属校）

近畿大学附属豊岡高、豊岡高、尼崎小田高、星稜高、御影高、明石北高、県立農業高、龍野高、姫路西高、神戸大、関西学院大、兵庫県立大ほか



グループディスカッションの様子（姫路会場）



プレゼンテーションの様子（豊岡会場）

フューチャーデザイン手法の活用

- ・ 長期的な問題の解決にあたり、「仮想将来人」になりきって、将来世代の視点から現在の政策を考察する手法
⇒現代世代の人々とは異なる思考（将来世代の利益を考慮した意思決定）をすることで、持続可能な選択を意識



主な意見

- 【議論の特徴】
- ・ **長期的な視点**から、人材育成や意識改革、技術開発などに強く着目
 - ・ 「脱炭素」「自然共生」「資源循環」の**相互の関連性を意識**した議論が展開

【具体的な対策案】

脱炭素	・ 脱炭素の取り組みを「がまん」ではなく「自分ごと」や「生活の一部」にする ・ 地域だけでなく、企業・学校の単位で脱炭素に取り組む ・ 企業のCO₂排出量開示の義務化
自然共生	・ ビル屋上の里山環境など、都会に生き物の棲みかを増やす ・ 生活財を自然の素材を活用したものに見直す ・ 給食・学食・社食でジビエ料理を取り入れる ・ ドローンやセンサーを活用した野生動物の生息数・生息域の把握
資源循環	・ リペアの衣服が個性的で格好いいという意識変革やリペア方法の学習により、リペアの衣服を普及させる ・ 新品の代金や廃棄物の処理費も高くすることで、物を大切に使うようにする ・ 企業におけるごみのリサイクル割合の基準を作る
全 般	・ 義務教育から段階的に「地球環境」を必須科目に組み込む ・ 環境への貢献度で企業を評価する仕組みをつくる ・ ノーベル環境賞を創設する

参加者の感想

- ・ 自分ごととして考えられた
- ・ 意見を具体的な施策につなげてほしい
- ・ 行政に直接思いを伝えられた
- ・ 関心のない人にもこうした取組を知ってもらうことが大事

2 市町の意見と特徴的な取組

市町の意見

脱炭素	・「知る、測る、減らす」の各ステップにおいて、支援機関が一体となって事業者の脱炭素経営を促進するためのコンソーシアム構築が必要（伊丹市） ・EV充電器の普及促進についても記載されたい（伊丹市）
自然共生	・侵略的外来種ではないが、アカミミガメに関する対策の拡大が必要（明石市） 〔アカミミガメ特定外来生物に指定される以前より対策を講じているが、未だ大量に捕獲される状況。広域での対策が有効であることが検証されており、未実施の市町での取組拡大を求めるため〕
全般	・県と市町とが連携して取り組む施策について示されたい（加古川市）

市町の特徴的な取組

（1）水素スマートシティ神戸構想（神戸市）

民間企業が進める水素に関する先進的な技術開発への支援や市民生活に身近な分野での水素利活用拡大に向けた取組を産学官連携して実施

〔企業との取組〕

・水素サプライチェーン構築 ・水素コージェネレーションシステム（C G S）

〔身近な分野での取組〕

・水素モビリティの導入促進 ・水素ステーションの整備促進



水素サプライチェーン構築実証事業



ポートアイランド内で開所した水素ステーション

（2）資源回収ステーション（神戸市）

水平リサイクルに取り組む事業者と連携し、品目ごとにプラ製品を回収する「資源回収ステーション」を展開。誰もがいつでも指定袋を使わず持ち込むことができ、併設の交流スペースで会話を楽しむこともできる。



あづま資源回収ステーション(神戸市中央区)



ふたば資源回収ステーション(神戸市長田区)

（3）外来生物展示センター（神戸市）

アメリカザリガニやアカミミガメ等の生きた個体約30種600匹以上を観察できる生物飼育棟、アライグマやヌートリア等のはく製・標本約400点以上の展示や、クイズや在来生物と外来生物を学べる展示ホールなど、外来生物が生物多様性の脅威となっているかを理解し体験できる自治体初の拠点



生物飼育棟内の見学風景



展示ホール

(4) 明石・神戸アカミミガメ対策協議会（県・神戸市・明石市）

兵庫県、神戸市、明石市などが参画し、ため池管理者や市民団体等の協力のもと、広域でアカミミガメ、ナガエツルノゲイトウの駆除を実施し、生態系の回復に取り組む



アカミミガメを回収



ナガエツルノゲイトウ防除

(5) 脱炭素化に向けた共同調達支援事業（伊丹市ほか）

【事業者向け】

太陽光パネル、再エネ電力、電力非化石証書の調達を目指す事業者を募集し、共同調達することで調達コストの低廉化等を図る支援事業を展開（伊丹市）

【市民向け】

戸建住宅や事業所等を対象に、太陽光パネル・蓄電池を共同購入することによるスケールメリットを活かし、安価に設備導入ができる事業を展開（神戸市、尼崎市、明石市、西宮市、芦屋市、伊丹市、加古川市、宝塚市、高砂市、川西市、三田市、猪名川町、稲美町、播磨町）

チラシ
（事業者向け）



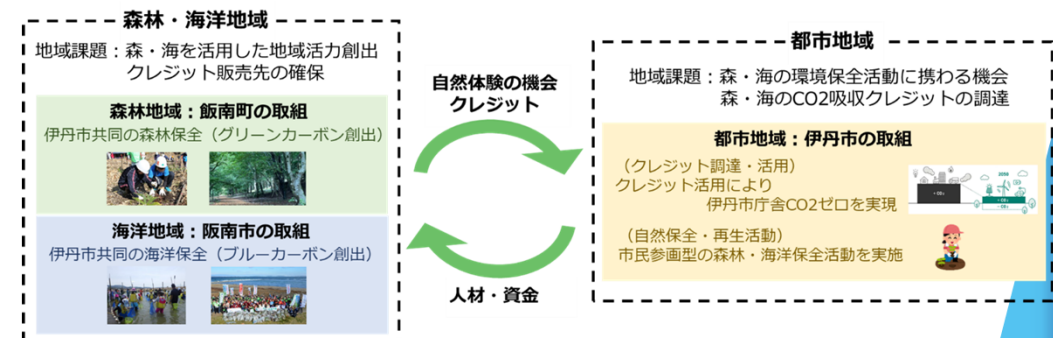
チラシ
（市民向け）



(6) 脱炭素社会実現に向けた地域循環共生事業（伊丹市）

兵庫県伊丹市、島根県飯南町、大阪府阪南市とソーシャルエックスの4団体協働で、各団体の強みを生かしたカーボンクレジットの創出を通じて官民連携を生み出すための地域循環共生圏プロジェクトを展開

伊丹市（都市地域）、飯南町（森林地域）、阪南市（海洋地域）のそれぞれの特徴を踏まえ、人的交流も行いながら、共創関係を構築



(7) 赤穂下水管理センター消化ガス発電事業（赤穂市）

下水処理の過程で発生する可燃性のバイオガス(消化ガス)の一部約37%は、これまでボイラー設備の燃料として場内で再利用し、残りを焼却してきたが、それらの余剰消化ガスを使用し、バイオマス発電(民設民営方式)を行うことで環境負荷の低減とともに、下水道収入を確保



- 余剰消化ガス量
約237,000m³/年
- 想定年間発電量
約34万kWh/年
(一般家庭約80世帯相当)
- 発電期間
R6.6.1～R26.5.31(20年間)